

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」



独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家  
コミュニケーションマガジン

# Open the Door!

Vol.8



## 特集Ⅰ 新しい公共型の施設運営

- 今日的課題プロジェクト
- 研修支援プロジェクト
- 指導者養成プロジェクト
- 管理運営・広報プロジェクト

## 特集Ⅱ 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動

体験の風をおこそう

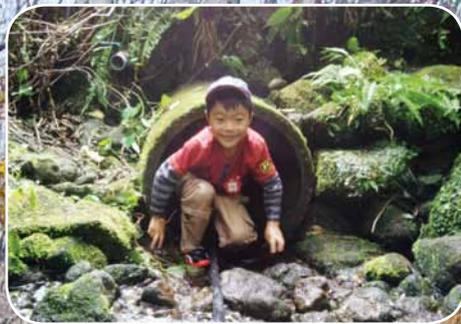


GACHAPIN×MUKKU  
© FUJITV KIDS  
国立青少年教育振興機構

※ガチャピンとムックは、「体験の風をおこそう」運動の応援団です。

# 危機感から取り組む「新しい公共」型施設運営

地域全体で子どもたちを育む



妙高の山々に挑戦する登山。苦しい登山道での自分との戦い。しかし、周りには仲間が。そして、山頂での大きな達成感と仲間への感謝。一人では苦しいことも仲間と一緒に頑張れる。今、子どもたちのいじめや不登校、ネット中毒といった課題が社会問題にもなっています。私たちは、このような課題に対して危機感を感じ、課題に対応できるプログラム開発や活動環境の整備を行って施設の改善を図るために、地域や関係機関と一体となった施設運営を始めました。

平成二十四年三月、文部科学省の「国立青少年教育施設の在り方に関する検討会」で、「新しい公共」型の施設運営を目指すよう提言され今年度より試行実施で取り組んでいます。「新しい公共」型の施設運営とは、青少年団体、NPO法人、民間企業、学校・大学、地方自治体、地域住





運営協議会委員長  
(妙高市教育長)



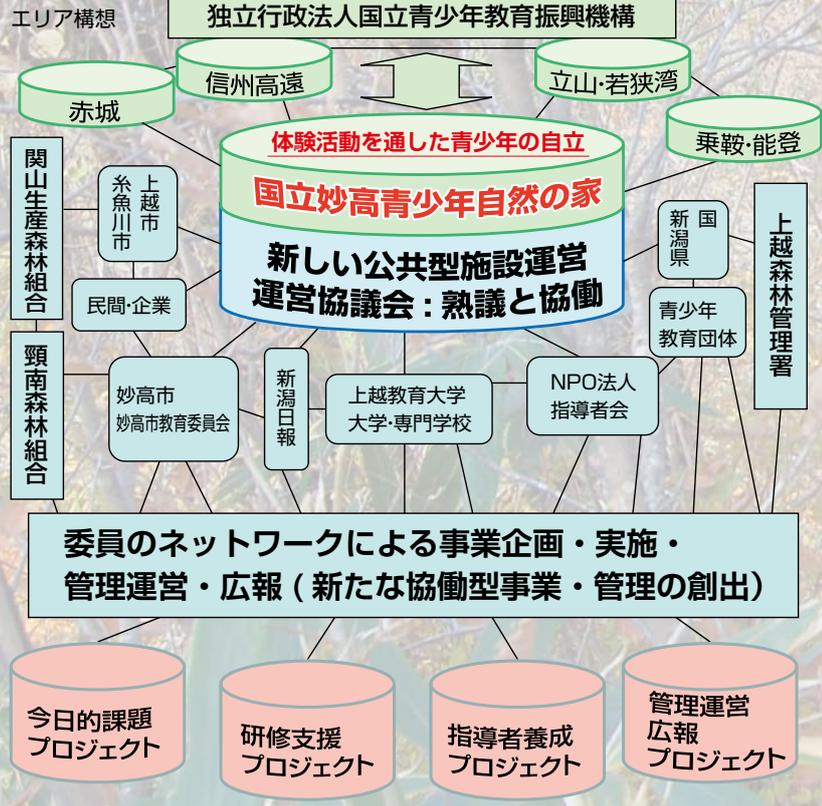
濁川 明男

今年は、委員の皆様がこの「新しい公共」の考え方をイメージしてもらうことと、現実には何をどう進めればいいのか熟議を重ねました。1年間取り組み、事業の成果をみることで、妙高タイプの新しい公共型のイメージが少しずつ見えてきているようです。妙高市では、全小学校6年生が4泊5日する長期集団宿泊活動「妙高フレンドスクール」を、自然の家、民間、学校、市教育委員会等と協働型で実施しております。このような取組が、一つのモデルとなって、地域全体で子どもたちを育む協働型の取組ができればと願っています。

民の方々など地域の皆様に、自然の家の管理運営や事業の企画・実施に参画していただくことです。いわば、国と地域が一体となった地域密着型のナショナルセンターを目指しています。当施設では、地域と一体となった新しい公共型の施設運営をするために運営協議会を立ち上げ、委員長には妙高市教育長濁川明男氏をお願いし十二名の委員でスタートしました。委員の皆様には「辛口のパートナー」となっていただけのようにお願いし、「熟議」と「協働」をキーワードに委員の皆様を通して多くの事業や環境整備に参画していただきました。また、国立の周辺施設ともネットワークを組み、連携した事業も行っていました。

下の図は、そのイメージ図です。委員のネットワークにより、四つのプロジェクトを立ち上げ、一年間取り組んでまいりました。今回の特集は、このように地域の皆様や専門家の皆様の力をお借りした「新しい公共」型で取り組んだ、子どもたちの健全育成のために行っている事業や取組などを紹介します。

国立妙高青少年自然の家運営協議会イメージ図



# YES, I CAN IN 信濃川 2013

## ～この夏 見つける 輝く自分～

**長期自然体験活動で育つ「実行力」**  
 ～不登校・いじめに悩む子どもたちの統合キャンプを通して～

今年も、全長367km、日本一長い川「信濃川」をステージとした12泊13日の長期チャレンジキャンプを実施しました。このキャンプには一都六県より18人の子どもたちが参加しました。今回は、運営協議会委員3名の参画を得て、一般募集の子どもたちと、不登校やいじめなどで悩みを抱える子どもたちとの統合型長期キャンプとして改善を図りました。このキャンプ全体のねらいは、「実行力」の育成です。彼らがこのキャンプを通して、仲間と関わる中で困難に立ち向かう強い心を育むことができるよう、支援を行いました。

時間には起きること。3食をきちんと取ることなど生活習慣もよりよく改善されていきました。

第3ステージのEボートに入る頃には、皆、班の中で生き生きと活動できるようになり、不登校で悩んでいた中学生の参加者はリーダーシップを発揮できるまでに成長しました。また、「俺、学校から逃げたことあるよ。」と、仲間を信頼して自己開示する子もいました。

第4ステージは手作りいかだ、最も困難な活動です。しかし参加者は皆、これまでの活動で身につけた自信にあふれ、班の中でよく相談し、様々な困難を乗り越えていきます。

新潟みなとびあのゴール地点に飛び込んできた参加者の顔は、満面の笑顔、くしゃくしゃの涙顔とさまざまでしたが、どの顔もすべて圧倒的な達成感と満足感で満ちあふれていました。



キャンプ後、「私は自分のいいところが分からなかったけれど、このキャンプをこえて、自分を尊敬することができました。」「自分は積極的に話す

キャンプ前、第1ステージの甲武信ヶ岳登山、第2ステージのMTBチャレンジと困難な活動を乗り越えながら、順調に仲間との絆を育んでいきました。班の中で日を追うごとにしつかりと意見を発表できるようにになりました。また、決まった時間に寝て、決まった



YES I CAN 2013 活動表

日	月	曜日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	入浴	洗濯	宿泊場所
第1ステージ	7月27日	土				受付・開式	アンケート	アイスブレイク	昼食	バス移動 (梓山公民館)			炊事・入浴		計画作り (マインドマップ)				白木屋		川上村 梓山公民館
	7月28日	日	朝食	甲武信ヶ岳登山 (源流探検)									炊事・入浴	計画作り				白木屋		川上村 梓山公民館	
第2ステージ	7月29日	月	朝食	移動 (道の駅上田) 電車、徒歩				昼食	MTBトレーニング 練習・20km	テント設置	炊事・入浴	計画作り							アクアアラサ上田 (テント)		道の駅上田
	7月30日	火	朝食	テント片付け	MTBチャレンジ (昼食は弁当)							炊事・入浴・洗濯	計画修正						施設浴		飯島 (旅館)
第3ステージ	7月31日	水	朝食	MTBチャレンジ (昼食は弁当)							炊事・入浴	計画修正							施設浴		百年の館
	8月1日	木	朝食	MTBチャレンジ				昼食	川遊び		炊事・入浴	計画作り							施設浴		川井住良センター
第4ステージ	8月2日	金	朝食	Eボートチャレンジ (昼食は弁当)						テント設置	入浴・夕食	計画修正							かまふる温泉		越後河川公園 (テント)
	8月3日	土	朝食	テント片付け	Eボートチャレンジ (昼食は弁当)							炊事・入浴・洗濯	計画修正						施設浴		三条曾六 旅館
第5ステージ	8月4日	日	朝食	Eボートチャレンジ (昼食は弁当)、雁巻緑地公園到着							炊事・入浴	計画作り							花の湯館		新保研修センター
	8月5日	月	朝食	いかだ作り				昼食	いかだ出発 (雁巻緑地公園)		炊事・入浴	計画修正								花の湯館	
第6ステージ	8月6日	火	朝食	雁巻緑地公園出発、手作りいかだチャレンジ (昼食は弁当)						バス移動	夕食	計画修正							シャワー		大塚少年センター
	8月7日	水	朝食	バス移動	手作りいかだチャレンジ (昼食は弁当)						河口へ (川口)	夕食 (オードブル)							シャワー		大塚少年センター
第7ステージ	8月8日	木	バス移動 (車中で朝食)		アンケート																

■自然の家食堂 ■炊事 ■弁当 ■旅館食 ■夕食 ■朝食 ■外食

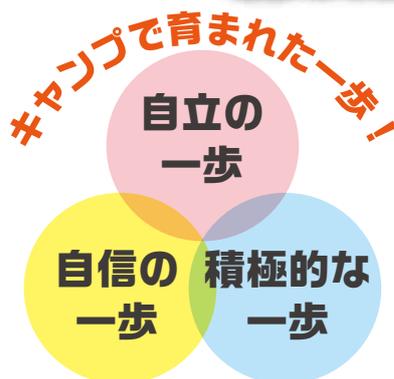


# 幼児キャンプ2013

## ～森のたんけん隊～

### 幼児キャンプを通して 成長した子どもたちの姿

2年目を終えて



積極的に自然と関わります



自分のことは自分で行います

年間を通して豊かな自然体験活動を実施してきました。子どもも保護者も四季の恵みを、身体全体で感じ、諸感覚を研ぎ澄まし多様な森の中でいろいろなものを発見し感動を味わいました。

子どもたちは木の芽を見て「鹿の足みたい」、「これ食べられる」など、自ら興味を持ち、自然物と関わっていきます。

また、着替えや歯みがきなど自分で行うことを意識してキャンプ生活に取り組みました。子どもたちは小さなリュックから一所懸命に服を出して、何とか着替えようとしていきます。

時間がかかったり、失敗することも多いです。そこで保育士や保護者は手を出したいところをグッとこらえて、「自分でする」。失敗しても何度も挑戦する。自分でできた」という力を少しでも身につけさせたくて、環境設定や援助を行ってきました。

キャンプを重ねる毎に、子どもたちは力をつけてきました。自分の荷物を整理し、何がどこにあるかわかるようになってきます。親と離れて寝る。という大き

## 幼児キャンプの協働運営

～妙高市教育委員会との協働～

キャンプにおける妙高市教育委員会との協働は2年目を迎えました。新任保育士3名は企画から運営評価まで一連の流れを通してキャンプに参画しました。まさに、経験は力なりで保育士自身が試行錯誤を繰り返しながら、よりよい環境設定を行い、子どもたちに適した援助を行いました。子どもたちの興味や発達に即したきめ細かい援助や、自然への関心を深める言葉かけなどを行い、環境に

応じて自然のもつ教育的資源を上手く生かすことが出来ました。

この力は、勤務先の園に戻っても発揮されています。今後このような協働型を深めながら、妙高市全体における保育士の資質向上を目指していきたいと思えます。

不安と期待が入り混じりながらも朝まで寝ることが全員出来ました。友だちと手をつないで寝たり、近くで寄り添って寝たりと、支え合いながら一緒にがんばることができたのでしょう。子どもたちが朝を迎えたときの表情はとても凛々しく自信に満ちあふれていました。

このような、自然体験や友だちとの生活体験を通して、豊かな心や感性、今を生き抜く力が身についていくと確信しています。

ご尽力をいただきました、3名の保育士、園指導主事、教育長には心より感謝申し上げます。



保育士との企画会議

# 大地の秘密探検隊

## 体験・見学・採集三昧 糸魚川世界ジオパーク!

8月24日(土)～26日(月)

糸魚川ジオパーク協議会と共催で実施した大地の秘密探検隊。県内各地、東京都から総勢16名(小学校5・6年生・中学校1年生)の岩石好き、化石好きな子どもが糸魚川世界ジオパークに集いました。この事業は、糸魚川市から予算を補助していただき、指導者の派遣や、施設の借用まで支援していただいた協働型事業です。今回の事業の改善点は、課題解決型の体験活動を開発、実施したこと。そのため、夏休みの課題作りとして活用した子どもたちもいました。

今年度は、直江津駅からスタートに計画を変更しました。目的は「筒石駅」。筒



石駅はトンネル内で電車が停車します。地下トンネル

内で駅員さんから説明を聞いた後、貨物列車や特急列車がトンネル内を無停車で通過する際の強烈な風圧を体験しました。さらに扉周辺の強い風圧については、「トンネルを空気鉄砲の筒に例える」と・・・という説明にみんな空気が移動する際の風圧のすごさを納得していた様子でした。地下駅の涼しさにも感激していました。



その後は、ジオパークの不思議を求めて西へ東へと移動します。フォッサマグナミュージアムでは、学芸員さんの説明をお聞きし館内を見学。世界各地の岩石、糸魚川の岩石にみんなの目は釘付けです。翌日の現地見学では、フォッサマグナパークの糸魚川―静岡構造線を見学。途中、枕状溶岩に含まれる丸いメノウ塊に感激。小滝川ヒスイ峡でヒスイの原石を観察したりもしました。小滝川ヒスイ峡では、石灰岩の切り立った大岸壁に驚きつつ、

斜面をみていた子が大発見。崖を登るクライマーを発見し、「あーい」と声を掛け合うこともできました。ジオパークのもう一つの魅力であるロッククライミングの醍醐味も感じる事ができました。

3日間のプログラムで特に人気だったのはやはり岩石採集体験です。フォッサマグナパークでのメノウ採集、フォッサマグナミュージアムでの石灰岩化石採し、須沢海岸での岩石標本づくりは、どの子も時間のたつのも忘れて夢中になっていました。用意したボックスがいっぱいになってしまい、さらに自然の家で用意したバケツにも石を持ち帰る子もいたほどです。自然の家で、現地で拾った石を元にして行った岩石鑑定でできた箱一杯の岩石標本を前に、とつともうれしそうでした。

最終日に書いたジオパーク新聞作りは、写真を交えて楽しい作品ができました。みんな糸魚川世界ジオパークの魅力をつづり出したこと、思い出が沢山つづられていました。



### 活動プログラム

時間帯	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	
8/24(土)	晴天					北陸本線電車乗車 筒石駅下車 見学列車通過 風圧体験	移動	開会式	移動	移動										
	晴天					直江津駅	移動	移動												
8/25(日)	晴天																			
	晴天																			
8/26(月)	晴天																			
	晴天																			



平成25年  
11月19日～29日  
(10泊11日)

# アセアン加盟国 中学生招聘交流事業

特集I 今日の課題プロジェクト



妙高市長・妙高市教育委員会教育長表敬訪問

## 運営方法

新しい公共型の事業運営を行い、企画委員の方々にそれぞれの活動の部分で参画していただきました。妙高市立新井中学校では、中学生との交流、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会では、ホームステイ、上越教育大学では、日本語の特別講義、NPO法人妙高山麓自然体験指導会では、民話やわらぞり作りに参画いただきました。それぞれの専門性を十分に生かしていただくことで、非常に活動の質の高い事業になりました。

この事業は、文部科学省委託事業でアセアン加盟国のインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、の9カ国から、日本に興味・関心のある中学生を招聘しました。3年目となる今年度は、フィリピン、シンガポール、ラオスの中学生18名が妙高を訪れました。

## 参加者から

- ・日本人と交流することで、自分をもっと積極的にならなければいけないと感じた (フィリピン参加者)
- ・私は家に帰ったらお母さんにホストファミリーになって頼みたいと思う (ラオス参加者)
- ・もっと日本語が必要と思った。日本語をがんばって勉強したい (シンガポール参加者)

参加者はすべて、毎日ふり返りを行う中で、今、自分がやるべきこと、やりたいことを具体的にしっかりと考えることができました。



ホームステイ



妙高市立新井中学校との交流



日本の昔話を体験!



初めてのスケート!



わらぞりを作りました

プログラム	
期 日	内 容
11月19日(火)	日本へ到着
11月20日(水)	妙高市長・教育長表敬訪問 妙高市立新井中学校訪問 ・授業体験、部活動体験、中学生との交流
11月21日(木)	日本文化体験 ・うどん作り ・わらぞり作り
11月22日(金)	日本文化体験 ・日本文化体験(善光寺訪問) ・アイススケート体験
11月23日(土)	ホームステイ体験 ・ホストファミリーとの交流 ・日本生活文化体験
11月24日(日)	ホームステイ体験 ・ホストファミリーとの交流 ・もちつき体験
11月25日(月)	上越教育大学訪問 ・大学での講義体験 ・サークル体験
11月26日(火)	妙高市立新井中学校訪問 中学生との意見交換会 フェアウェルパーティー
11月27日(水)	東京へ 各国大使館訪問
11月28日(木)	6カ国合同評価会(ラオス、フィリピン、シンガポール、カンボジア、マレーシア、日本)
11月29日(金)	出国



# 大洞原ハイキングコース



特集Ⅰ 研修支援プロジェクト

「大洞原ハイキングコース」は、平成25年8月13日の真夏の暑い日に、「体験の風をおこそう運動」推進モデルコースとしてオープンしました。オープン時の大洞原「四季の花畑」はひまわりの花で満開であったことも重なり、1ヶ月で約1,000人の利用がありました。季節毎にかわっていく四季の花畑を楽しむことができます。

来上がったものです。今後は、地元や専門家との協働により、ハイキングコースを利用した「新プログラム・協働型プログラム」の開発を検討しています。地元・専門家の経験・地域素材を指導に生かしたプログラム（酪農体験・農業体験・料理体験・自然環境学習・・・）など、様々な妙高の体験の風をおこします。ご期待ください。

なお、「大洞原ハイキングコース」は、「新しい公共」型の管理運営に伴い、「協働型の運営」を取り入れて開発されました。ハイキングコースの選定、立て看板の設置及び目的地でもあるハートランド妙高（妙高山麓都市農村交流施設）との協働運営では、妙高市、妙高市グリーンツーリズム協議会、大洞原地区協議会及び当所の協働により出

大洞原ハイキングコース 全長3.8km

お花畑や自然の森を体験することができます。ハートランド妙高は、地元の人の交流体験ができます。

スタート & ゴール

ハートランド妙高  
妙高山麓都市農村交流施設  
TEL: 0255-95-3635  
http://heartlandcity.com/

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
アサギアザミ						
アサギアザミ						
アサギアザミ						



# 藤巻山階段整備

当所の活動プログラムのひとつである「藤巻山登山」は、毎年約1,000人の子どもたちが利用している人気プログラムのひとつです。四季折々の自然の変化とブナ林など豊かな自然を満喫できるコースとして、また、林道から高田平野・日本海を望むことができ、清流の中で川遊びも楽しめる老若男女を問わず親しまれている往復10キロコースとなっています。

この度は、藤巻山登山道の下山口付近の急斜面に木製階段1200段を上越森林管理署の指導により整備して、子どもたちがより安心、安全に登山をすることができるよう、「新しい公共型」の協働整備を実施しました。期日は、平成25年7月23日、協働機関として、妙高市

教育委員会、妙高市、上越森林管理署、NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会、前橋林業協会新潟支部高田分会、個人ボランティア、当所職員 計45人の方々により、頑丈な木製階段が整備されました。今後とも「新しい公共型」の協働体制を充実させ、「支え合いと活力のある社会」を目標に当事者として参加していきます。ありがとうございました。

「新しい公共型」の協働整備を実施しました。期日は、平成25年7月23日、協働機関として、妙高市



# 源探検の 新コース開発

源流探検プログラムは、自然の家施設周辺の沢の中を歩きながら源流を目指すプログラムです。幼稚園から小・中学生・一般の団体まで多くの皆様からご利用いただき、混雑が続いていました。そこで、新しい公共型の運営協議会委員等から参画していただき新コースを開発することになりました。

10月、土地を管理されている関山生産森林組合の組合長さん、研修指導員をお願いしているNPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会の会員の皆さんから参画していただき、今年度の利用実態を振り返って、新コースの概要や、開発作業方針の熟議を重ねました。

実際の作業では、研修指導員の皆さんのご協力を得て開発作業を行いました。未開発の沢は、雑木やツルが生い茂り沢を歩くのも困難な現状でしたが作業の後、利用者の皆さんが歩けるような沢に変身しました。また、指導員さんの意見で、沢に至る取り付け道をも開発をすることになりました。この新取り付け道路を経由して沢に至ることで、森を歩く森林学習と、沢を歩く水の学習・火山学習といった、森と水の複合的な学習ができるプランも提供できる見込みとなっております。

今後は、平成26年度の提供に向けて、雑木の伐採や活動マップの作成を計画



新しいマップ  
だよ  
みなさん  
ぜひ新しい  
コースを体験  
してね



しています。また、指導者会のみなさんは、新コースの植生や生物の調査を計画しています。

国立妙高青少年自然の家周辺の恵まれた周辺環境を生かして、施設職員、実際の利用者の指導に当たっておられる指導員の皆様方と議論を重ねながら、新しい体験活動プログラム、指導資料

を作ることができるとは、まさに新しい公共の視点を具現化するものと考えます。今後とも協働しながら新しいプログラムを開発していきます。



関山生産森林組合組合長兼研修指導員の後藤求さんから、山を知り尽くしたプロに参画していただきました。

# 妙高ネイチャープログラム (MNP) 指導者養成研修 妙高アドベンチャープログラム (MA) 指導者養成研修 妙高アドベンチャースキルアップ研修



今年度は、上記3つの研修指導員養成のための研修を実施しました。「新しい公共」の視点から昨年度から変更したところは、「研修指導員のニーズを研修に反映する」という点です。つまり、人から与えられる研修ではなく、研修指導員自らが作り出していく参加型の研修です。研修指導員の参画により、いずれの研修も例年よりも質の高い研修ができました。

MNP 指導者養成研修には、17名の方から参加いただきました。今年度は、学校の先生方にも参加を募ったところ、教材研修や事前学習としての参加もあったことから、ご利用の多い「小学校の利用団体」を想定して、学校の求めるニーズを踏まえながら、現地での研修を深めました。実際には、妙高火山学習、源流体験、藤巻山ブナ林学習、星座観察と、自然の家でご利用の多いプログラムを体験していただきました。MNP 指導者と学校の先生方が同時に研修を受講できたことで、お互いの思いを意見交換したり、児童への体験のさせ方や指導方策についての議論を深めたりすることができました。



MA スキルアップ研修には、15名の方から参加いただきました。プロジェクトアドベンチャージャパンから講師をお招きし、質の高い研修を実施することができました。参加者の方はすでに研修指導員として活躍いただいている方々ですが、さらに研修を深め、それぞれがもっている情報を共有することができました。まさに、参加者同士で刺激し合うことで、スキルアップすることができた研修となりました。

MA 指導者養成研修には、21名の方から参加いただきました。MA スキルアップと同様に、プロジェクトアドベンチャージャパンから講師をお招きし、参加者それぞれの立場で、高い意識をもって研修することができました。この研修を修了すると「妙高アドベンチャー」の指導者として活動することができ、コミュニケーション能力の育成が上げられ、年々利用者のニーズも高まってきています。そんな課題を抱える中で、まずは自分で「妙高アドベンチャー」を体験してみませんか？体験から学ぶことは多くあると思います。みなさんのご参加をお待ちしております。



# ボランティアの育成



「MYOKO ボランティア養成所」は、6月と8月の2回実施しました。今年度、例年と大きく改善したことは、妙高市教育委員会主催の事業と兼ねて共催で実施したという点です。研修期間の中で、我々自然の家職員他、妙高市教育委員会教育長、指導主事、民間の自然学校代表の方からも講義をいただきました。どの講義も、非常に具体的で質の高い内容でしたので、参加者はとも充実した研修を受けることができました。

参加者数は、2回の合計で86名になりました。その多くは大学1年生でしたので、より具体的な場面を想定しての講義や演習はとても有効であったと思います。アンケート結果の満足度の高さからも、今年度の研修が参加者にとっ



妙高市教委指導主事の具体的な「いじめ防止」の講義

て充実した内容であったということが伺えます。

特に具体的な内容であったのが、いじめ問題についての対応です。

「いじめに発展するまでに、小さな前兆がある。それを見逃してはならない」

参加者はこの言葉から、ボランティアとして子どもたちと接する時の「責任の重さ」を感じたと思います。ワークショップ型の演習の中では、お互いの意見を交換し合い、真剣に話し合っている姿が見られました。具体的な事例の検討から、実際の場面のイメージし、「自分だったらどうするか、どうすべきか」をそれぞれが考えを深めることができました。

実際、子どもたちが充実した活

動を楽しく行うためには、ボランティアスタッフの力は欠かすことのできないものとなっております。子どもたちの活動を充実するためだけでなく、活動の教育的価値を高めていく上でも、優秀なボランティアスタッフの育成は、最も重要なことと言っても過言ではありません。

そんな優秀なボランティアに支



えられ、今年度も妙高青少年自然の家で行われた多くの事業が、大変充実した活動となりました。この場をお借りして、自然の家の事業に参加していただいた、たくさんの方々に感謝いたします。

「おりがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。」



特集Ⅰ 指導者養成プロジェクト



## 企業協賛型の事業開発

### 子どもゆめ基金体験の風リレーシヨンシップ事業

第2回

# 妙高山麓ライオン滑降スキー大会

旧妙高村で開催されてきました「妙高ライオン滑降スキー大会」は、平成16年の第42回大会をもって幕を閉じました。

しかし昨年、地域の方々の「もう一度開催したい」という思いを、「子どもゆめ基金体験の風リレーシヨンシップ事業」の一環として、「妙高山麓ライオン滑降スキー大会」というカタチで復活させることができました。

この復活は、主管となった「妙高ジュニアスキー育成会」「妙高スキー協会」のご尽力とともに、新しい公共型の運営協議会委員の紹介等により後援・協賛いただき、多くの企業・団体の皆様のおかげで実現することができました。

まずは、深く御礼を申し上げます。さて、今年で第2回目となった「妙高山麓ライオン滑降スキー大会」には、前述の通り、企業・団体の皆様からご支援いただいた協賛金を入賞メダル・入賞賞品の購入費用として使わせていただき、協賛品につきましては、選手参加賞、親子賞、とび賞という形で景品として使わせていただきました。

中でも、ハウス食品からはカレールー

540食、伊藤園からはペットボトル飲料水360本をいただき、参加賞及び軽食のカレーライスに使わせていただきました。その他にも、妙高スキーパーク無料リフト券やゴルフ招待券、休暇村妙高無料宿泊券、ガリウムワックスやスポーツバック、ミネラルウォーター、パイナップル等々、多数の協賛品をいただいたことにより、閉会式では「お楽しみ抽選会」も実施でき、盛大に開催することができました。

#### 【協賛金をいただいた企業・団体等】（順不同）

(株)桐朋、頸南バス(株)、(株)妙高高原生コン、セブンイレブン妙高関山店、新潟みらい建設(株)上越営業所  
(株)パーツプロダクション、岡本石油、(株)第一印刷所、関温泉旅館組合、ニッコトラスト東日本、太田誠一前妙高ジュニアスキー育成会会長、オリエント本店

#### 【協賛品をいただいた企業・団体等】（順不同）

ハウス食品、伊藤園、妙高スキーパーク、休暇村妙高、ウチダスポーツ、十二屋、大原屋、

#### 【大会を通じて後援・支援いただいた企業・団体等】

- ・コース使用及び整備作業／妙高スキーパーク
- ・競技役員／妙高ジュニアスキー育成会  
妙高スキー協会  
NPO法人妙高山麓自然体験活動者指導会
- ・記録計測用通信ケーブル設置及び競技役員／  
陸上自衛隊高田駐屯地
- ・交通安全指導／妙高警察署
- ・駐車場誘導／ハイウェイガード
- ・シャトルバス借用／妙高市教育委員会
- ・シャトルバス運行／妙高高原観光バス
- ・宿泊施設案内／

妙高市観光協会  
関温泉旅館組合  
燕温泉旅館組合  
休暇村妙高



# 「家、Sハセガワ株式会社」

## 親子二代そろって

## 自然の家への支援



平成十八年、当時の所長と一緒に、ロータリークラブで知り合った地元妙高市の住宅メーカー「家S（イエス）ハセガワ（株）」（現社長：長谷川寛様）の前社長（現社長の父）様へ企業協賛のお願いに伺いました。子どもたちの活動の様子や施設の使命などを説明すると、『楽しい体験活動ができる施設で、子どもたちにとっては、とても大切な施設ですね。しかも、学校行事で宿泊するのだからと宿泊無料にしてくれている。それはとてもありがたい。地元の子どもたちもみんなお世話になっているようで、地元企業としても、子どもたちや施設の運営のためにと思い協賛させてもらいます。』と、とても温かいお言葉と共に協賛金をいただきました。それ以来、現社長様に交代されてからも、毎年、ご支援をいただいております。

今年も、お二人の社長様とお話しさせていただく機会に恵まれ、地元企業の自然の家に対する熱い思いを感じ、いただいた協賛金を有効に使わせていただいております。

### 私たちも子どもたちの自然体験活動を応援しています。

国立妙高青少年自然の家では、平成24・25年度に下記の方々からご寄付をいただきました。（敬称略・五十音順）

- 朝日酒造(株)
- 家'Sハセガワ(株)
- 岡本 鉄朗(岡本石油)
- (株)大谷ビジネス
- (株)謙信堂
- (株)スワロースキー
- (株)高館組
- (株)第一印刷所上越支店
- (株)桐朋

- (株)ニッコトラスト東日本
- (株)パーツプロダクション
- (株)丸山酒造場
- (株)横瀬オーデオ
- (株)渡辺リネン
- 頸南バス(株)
- 国際自然環境アウトドア専門学校
- 高坂防災(株)
- サントリービバレッジ(株)上越支店

- 小山(株)新潟営業所
- 新星建機工業(株)
- 永田印刷(株)
- 新潟みらい建設(株)上越営業所
- ホシザキ北信越(株)上越営業所
- 三国コカ・コーラボトリング(株)上越支店
- 妙高観光開発(株)妙高カントリークラブ
- (有)アイビーオート
- (有)白星社

# 体験の風をおこそう運動推進事業

## 「はね馬プロジェクト」

### 「地域ぐるみで「体験の風をおこそう」種をまく」



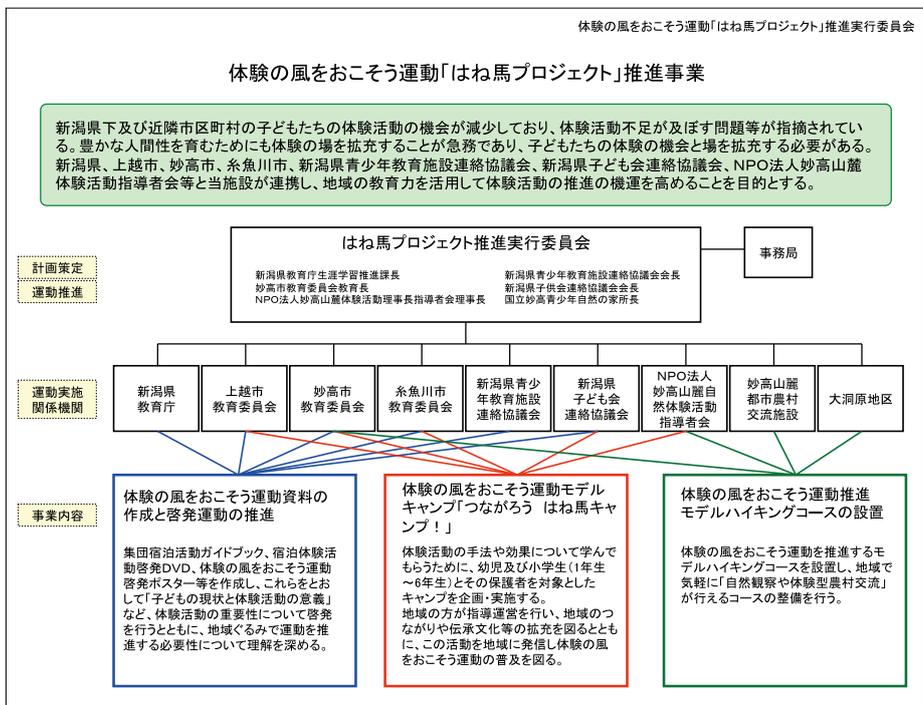
#### 1 おこそう

近年、社会が豊かで便利になる中で、子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子どもたちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、さまざまな体験の機会や場の拡充など体験活動の推進についての社会的機運の醸成を図る運動です。当施設では地域ぐるみで体験を推進するために、地域の方に関心と親しみを持ってもらおうと「はね馬プロジェクト」と名付け取り組むこととしました。

「はね馬」とは、妙高市に位置する標高2,454mの成層火山「妙高山」の外輪山である神奈山中腹に出現する、春の訪れを告げる雪型です。雪が溶け黒く見える山肌部分が、前足を上げる馬の姿となって現れ、里に春耕の開始を知らせる郷土のシンボルとなっています。「種や苗を植え、根付かせ、慈しみながら育て、やがて大きく成長し、豊かな実りとなる」、体験活動も同様に地域に根付き広がっていくことを願っています。

#### 2 「はね馬プロジェクト」の取組内容

平成25年度の取組は次に紹介する図のとおりです。大きく三つの柱立てをしております。



#### ① 「体験の風をおこそう」運動の資料作成と啓発運動の推進

これは以下の取組をおして「子どもたちの現状と体験活動の意義」など体験活動の重要性について啓発を行うとともに、地域ぐるみで運動を推進する必要性について理解を深めることを目的としています。

新潟県内外の周辺体験活動施設等を調査して、モデルプログラム、活動における安全管理、必要な経費、指導者等の情報を網羅したガイドブックを、新潟県青少年教育施設連絡協議会等で内容の検討をしていただきながら作成しています。学校や青少年団体等が、具体的な活動計画作成の手引として活用していただきたいと思います。併せて新潟県エリア内の11施設を紹介したポスターを作成し、身近にある施設に興味・関心を持ってもらうと共に、体験活動の重要性を発信し、各施設の利用促進にもつなげたいと考えています。

妙高フレンドスクールを題材に、長期集団宿泊体験の効果や具体的な運営方法を、分かりやすく編集した集団宿泊体験活動DVDを製作しました。長期集団宿泊体験が子どもたちの成長に大



きく寄与することなどの理解を広め、長期の取組への手助けとなることを願っています。

(注：妙高フレンドスクールは、中一ギャップ解消を目的として、妙高市が同じ中学に進学する小学6年生全員を対象に行う、教育課程に位置づけられた長期集団宿泊体験活動です。当施設は実行委員として参画すると共に、理科学習の指導をはじめ各種の支援を行うことで協賛しています。)

②モデルキャンブ「つなごろう はね馬キャンブ」の実施

地域の幼児や小学生を対象として、1泊2日で「つなごろう はね馬キャンブ」を3回実施しました。これは当施設の運営協議会委員から、「地元地域の幼児・小学生に多様な自然体験活動の場を提供してほしい」との意見もあり、運営協議会委員、NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会、妙高山麓都市農村交流施設と協働して実施しました。11月は小学校高学年を対象に、12月は小学校中・高学年を対象に、2月は幼児・小学校低学年とその保護者を対象にそれぞれ行いました。プログラムはそれぞれの季節の

自然体験、伝承文化体験、星座観察、ケーキクレープ、クッキーづくり等で、事業の企画運営はNPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会、妙高山麓都市農村交流施設及び当施設で行いました。ケーキクレープ、クッキーづくりはこの「はね馬キャンブ」で新たに開発したもので、パティシエの当施設食堂職員が開発と指導を担当しました。子どもたちは自分達で工夫して、思い思いの形のクレープやクッキーを作る等、大人気のプログラムとなりました。

③モデルハイキングコースの設置

妙高市役所農林課、妙高市教育委員会生涯学習課、妙高山麓都市農村交流施設及び地元大洞原地区協議会と協議し、連携して地域で気軽に自然観察や体験型農村交流ができる、3.8kmのモデルハイキングコースを設置しました。いつでも気軽に利用でき、郷土色あふれる体験や季節の花畑が楽しめることもあり、開設から1ヶ月で1,000人を超える利用がありました。(妙高山麓都市農村交流施設では、ぬか釜炊飯、郷土料理の笹寿しづくり、高原野菜収穫体験などの活動ができます。)



3 まかれた種

体験活動をもっと身近なものと感じてもらうため、上記の取組以外に出前事業として、「クラフト教室」、「絆



づくり集会」、「仲間づくり活動」、「体験活動についての講義」などを行いました。出前先からは、「今後も引き続き実施をお願いしたい」との声をいただきました。特に「絆づくり集会」「仲間づくり活動」では、豊かな人間性や社会性を育むコミュニケーション能力の向上が図れるよう、「妙高アドベンチャープログラム」の手法を用いて仲間づくりや課題解決型の活動を行っており、実施校からは「自己を再認識し、仲間を意識して活動することをおしてコミュニケーション能力が高まり、年間を通して行ったことで生徒の変容は大きい」、「教師の生徒理解が深まり多角的な視点から生徒を理解することができた」との評価をいただくと共に、学校通信などで広く保護者や地域にも活動の成果状況が伝えられています。また、大学等で実施した公開講座においても、「最近の大学生は人と関わる経験が少なく、コミュニケーション能力を向上させる経験をもっと積ませたい」との意見もいただきました。これからも関係機関と協働しながら新たな「体験活動推進の種」をまいてまいります。

# 体験の風をおこそう運動

# はね馬プロジェクト

# 「つながるう」

# はね馬キャンプ！in 妙高



体験の風をおこそう運動として、小学生や幼児のみなさんを対象に、「もっと国立妙高青少年自然の家を知っていただきたい。」「体験活動の楽しさを味わっていただきたい。」そんな思いから、野外活動や宿泊体験をする「はね馬キャンプ」を企画しました。学年別に3回に分けて募集し、上越市、妙高市、糸魚川市の高学年の皆さん20名、中学年の皆さん40名、低学年と幼児・保護者の皆さんで52名から参加していただきました。

## 【主な活動紹介】

### ◎高学年の部

藤巻山登山・キャンプファイヤー

星座観察・お菓子作り

### ◎中学年の部

ネイチャーゲーム・ぞうり作り

星座観察・お菓子作り

### ◎幼児・低学年の部

雪上遊び・雪灯籠・民話を聞く体験

お菓子作り

子どもたちに人気のプログラムを中心に企画しました。また各回の共通体験プログラムとして、最終日にお菓子作り体験も企画しました。

実際のプログラムづくりでは、NPO



法人妙高山麓自然体験活動指導者会の皆様、また、お菓子作りでは、食堂業者のバティシエさんから参画していただき、わかりやすく指導していただきました。

子どもたちの様子を見ると、最初はどうしても少し緊張している様子が見られました。しかし、様々な体験をしたり、みなさんが楽しみにしていたバイキングの食事でわいわい盛り上がり、どん

どん親しくなっていくのがわかります。いただいた感想からは、「初対面の人との活動は、最初は少し不安だったけどだんだん仲良くなって、夜にはすごく仲良くなって眠れないくらいでした。」と、仲間同士で過ごす中で、たくさんの新しい友達ができ、楽しい思い出を作っていたのだよかったです。

新しい友達ができるって楽しいね。そんな楽しさを感じていただいたキャンプとなりました。





## 出前MA

「妙高アドベンチャープログラム」(MA)は、体験活動を通して仲間の絆を深めることをねらいとする活動プログラムのひとつです。

「はねつまプロジェクト」として、体験活動の機会を提供するため、主に小中学校にMAの手法を使った活動を出前しています。

今年度は昨年度の3倍近い、20件以上の依頼をいただきました。小中学校や児童クラブなどの「絆集会」、「リーダー研修」、「PTC活動」で、子どもたちの笑顔にふれながらの活動は、私たちにとってもたいへん楽しく、刺激的の多い活動となりました。

また、複数回のシリーズとして計画的に企画していただき、先生方の研修の場としてご利用いただいた学校もありました。

これからも、先生方や団体の指導者の方々にMAの技法を広めることができればさらに充実した取り組みになると考えています。



## ネイチャークラフト教室

「妙高はねつまプロジェクト」の一貫として、出前クラフト教室に取り組んでいます。

今年度の主な活動は以下のとおりです。

- クラフト教室 6/22・9/20・12/7 バロー上越モール
- 食の風 in 妙高 5/18・19 妙高市赤倉温泉銀座通り
- 環境フェア 6/30 上越市市民プラザ
- ひまわりまつり 8/11・12 ハートランド妙高
- みようこう環境フェア 10/5 新井総合コミュニケーションセンター
- 新井南部まつり 10/20 新井南小学校
- 妙高ふるさとまつり 10/22 妙高ふれあいパーク
- 上越市教育コラボ・学び愛フェスタ 11/16 上越科学館
- 青少年のための科学の祭典(柏崎刈羽大会) 11/16 新潟工科大学
- (上越大会) 11/23・24 上越科学館

延べ2千人以上の方が「世界にひとつ」のクラフトづくりを楽しんでくださいました。

カラマツや松ぼっくり、どんぐりなどごふれあいながら、家族の絆を深めてくださることが私たちの楽しみでもあります。自然の家にもぜひ、足を運んでくださいね！



# 長期宿泊体験活動が 中1ギャップを解消します！ ～妙高フレンドスクールの事例から～

妙高フレンドスクールは今年で6年目の取り組みとなります。妙高市の小学校6年生が中学校区ごとに共に生活する長期キャンプです。今年度は5日間の日程で行われました。活動はすべて学校行事として教育課程に位置づけられ、体育、理科、家庭科、特別活動、外国語活動などの学習とも関連させています。その効果は顕著に現れ、現在妙高市の中学生の不登校数は全国、新潟県と比べても激減しています。

はじめての出会い子どもたちがキャンプを通して人間関係を育み、友情を育てていきます。最終日のダンスフェスティバルでは、出合って5日間のメンバーとは思えないほどの一体感が生まれています。数ヶ月後同

今年度、体験活動の重要性を発信するため妙高市で行っている、妙高フレンドスクールをもとにしたDVDを作成しました。これを用いて、長期宿泊体験活動の成果について広く全国へ発信していきます。

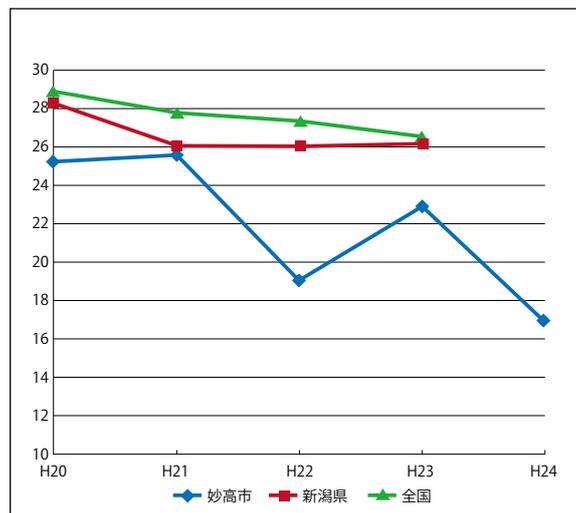


じ中学校で再びこの仲間と出会い、そして充実した中学校生活が送れるようになるのです。

このDVDを活用し、広く全国に長期宿泊体験活動が広がることを願っています。

妙高市にはフレンドスクールについて、県内、国内から多くの問い合わせが来います。

中学生1000人あたりの不登校数の推移



# 新潟県内施設紹介ポスター

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動の推進の一環として、新潟県青少年教育施設連絡協議会（加盟施設 国立妙高青少年自然の家、新潟県立青少年研修センター、新潟県少年自然の家、新潟県立生涯学習推進センター、新潟県立こども自然王国、阿賀野市五頭連峰少年自然の家、新潟市大畑少年センター、新潟市若者支援センター オール、新潟市こども創作活動館、新潟市動物ふれあいセンター、新潟市こども創造センター 以上11施設）との協働で、体験の風をおこそう運動の新潟県青少年教育施設を紹介するポスターとのぼりを作製し、配付・PRしました。

近年、子どもたちの体験活動の機会が減少しており、体験不足が及ぼす問題等が指摘されています。豊かな人間性を育むためにも体験活動の場を拡充することや、体験活動の重要性について理解してもらうことが急務であり、関係機関と連携して、子どもたちの体験の機会と場を積極的に提供していきたいと考えています。

また、ポスター・のぼりのPRの他に、ガイドブックや長期宿泊体験活動DVD（妙高フレンドスクール）も同封することにより、地域ぐるみで新潟県内の「体験の風をおこそう」運動の推進を図ります。

特集Ⅱ 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動

新潟の地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動

## こころにおみやげいーっぱい!

新潟の地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動

「体験の風をおこそう」運動

地域ぐるみで

新潟の

「体験の風をおこそう」運動

体験の風をおこそう

GACHAPIN × MUKKU

新潟県青少年教育施設連絡協議会

- 国立妙高青少年自然の家
- 新潟県立青少年研修センター
- 新潟県少年自然の家
- 新潟県立生涯学習推進センター
- 新潟県立こども自然王国
- 阿賀野市五頭連峰少年自然の家
- 新潟市大畑少年センター
- 新潟市若者支援センター オール
- 新潟市こども創作活動館
- 新潟市動物ふれあいセンター
- 新潟市こども創造センター

# 利用の手引きのDVDを 作成しました!

「事前に子どもたちに布団のたたみ方や

食堂の使い方を指導したいんだけど・・・。」

「初めてテント泊をするけど、テントのたて方が分からない・・・。」

など

施設の利用について、わかりやすく皆さんにご紹介したり、  
体験活動の重要性を発信したりするために、  
利用の手引き映像編（DVD）を作成しました。

このDVDは最初から最後まで見ても30分ちょっと。  
学校での事前学習で!バスでの移動中など。  
ぜひ、ご活用ください。

## コンテンツ

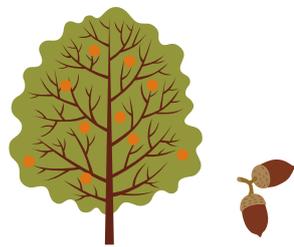
- ・自然の家の理念
- ・概要
- ・施設利用について

- ・宿泊室の利用
- ・食堂の利用
- ・お風呂の利用
- ・野外炊事の利用
- ・キャンプ場の利用
- ・活動プログラムについて
- ・夏季野外活動
- ・冬季野外活動
- ・炊事・レクリエーション活動
- ・クラフト活動



## 【閲覧方法】

- ・自然の家事務室で貸出し  
または
- ・ホームページ



※ YouTube から検索できます!

# Facebook はじめました!!

妙高青少年自然の家でも、Facebookを始めました。  
 青少年に体験活動の場を提供するため、イベントの募集や事業の様子、施設のトピックスなどを掲載していきますので、お楽しみに!!



妙高で法人ボランティア登録をしている人を対象に、『妙高ボランティア』のページも開設しました。  
 ここでは、妙高でのボランティア情報などを掲載していきます。  
 法人ボランティアのみならず、ぜひ、お友達登録をしてくださいね♪



## 質が高く安心安全な自然体験を妙高で

～つるたぐりの道～

少年自然の家制度が制定され、創設にあたられる方はじめて現地におもむきその場で思われたことが伝えられています。「現地は人里離れて進入路もない雑木林の山であった。驚きのあまりただ呆然と立ちすくむ。何のために、どんな建物を、なぜこのようなへき地に」と、次々になぜ、なぜの疑問が湧いてきてとどまることがない。」

少年自然の家は、少年に対し自然環境の中で集团的宿泊訓練を行い、野外活動、自然探求等を通じて、規律、協同、奉仕等の尊さを体験的に学習させるとともに、豊かな情操を培い心身ともに健全な少年の育成をはかることを目的として設置されました。

ここ国立妙高青少年自然の家（当時は少年自然の家）は、平成3年4月に新潟県南西部の妙高市に位置する標高2,454mの成層火山「妙高山」の麓に設立され、春からハイキングや登山などの活動がはじまり、冬には雪像づくりやスキー・ソリなどの雪上活動など、集団生活を行いながら、友だちと協力した達成感あふれる課題解決型の活動や、一緒に自然と触れ合う活動が四季を通じて行え、年間約13万人の方にご利用いただいています。

国立青少年教育施設は28施設あり、当施設は全国に28番目で最後に設置されました。先輩施設から蔓のように順次受け継がれたノウハウが詰まった施設であると言えるかもしれません。例えば、ハード面で挙げれば「プレイホール」です。先に挙げた目的では「自然環境の中で」とあり、雨でも風でも原則は野外活動を想定しており、プレイホールは荒天時のやむを得ない活動場所とされています。ふだんできない経験をする場が少年自然の家であるとの考えから、学校の体育館で行えるバレーや卓球等のような設備や用具類は用意されていませんでした。しかし、スポーツ青少年団体等が、スポーツをとおして子どもの育成を行う利用も増加し、それに応えられるようにプレイホールの設備・用具等も変化していきました。ソフト面で挙げれば、「職員ミーティング」です。当施設では朝と昼の2回行います。朝のミーティングから変更になったことや、新たな情報を昼のミーティングで確認し、職員の共通認識に努めています。更に「安全管理」、「施設運営」、「活動プログラム」、「設備」等について、職員がそれぞれ講師をつと



めて行く、職員15分研修を定期的に行うようにもなりました。冒頭に少年自然の家の先輩が、はじめて現地におもむきその場で思われたこと挙げました。先輩方の苦勞を知り先輩方の知恵に学ぶために、28施設につながる臺をたぐり、よいものを踏襲し、そして更によいものにしていく伝統を引き継いでいきたいと思ひます。それがここでの体験活動の充実や安全につながるしていくと信じています。今後も「13万人の子どもたちのために」を合言葉に、全職員でみなさんのサポートに努めてまいりますので、どうぞお越し下さい。



最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

Open the Door! Vol.8 平成 26 年 3 月発行



独立行政法人  
国立青少年教育振興機構

国立妙高青少年自然の家

〒 949-2235 新潟県 妙高市 大字 関山 6323-2

TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325 <http://myoko.niye.go.jp/>